

第3章 施設ケアのあり方

1 施設ケアの向上の推進

介護施設への入所希望が年々増すとともに、施設ケアに対する質の向上を求めるようになりました。これまで、家族や社会のために力を尽くし、今日の我が国を築き上げてきた高齢者世代の方々の介護が必要となり、家族と離れて施設での生活を余儀なくされるようになったとき、施設での暮らしが安心して生活を送れるものでなくてはならないからです。

そこで、当研究会では①介護理念の確立、②居場所づくりの確立、③多職種協働の確立、④人材育成の確立の『4つの柱』を確立することにより「施設ケア」の向上を図り、利用者個人の生活を支援し、尊厳の保持を最優先とするケアの実現を可能にすると考えました。そこでさらに検討を進めた結果、施設で実施可能な具体的なプログラムを作成し、19・20年度に県内の特別養護老人ホームにおいて実際にモデル事業として取り組んできました。

2 施設ケア向上のための『4つの柱』

施設のあり方研究会の施設ケア部会による検討委員会では、施設ケアの中核をなす重要な点は何かということについて、協議・検討しました。その結果、施設ケア向上のための方向性として、理念を確立し、利用者が家庭の延長として施設生活を送れるように支援することが重要であるとの考えに立ちました。そして、それを実現していくために、あらゆる職種が一人ひとりの利用者に対してそれぞれの専門性を発揮していくとともに、職員の質が問われるため、人材の育成が大切であるとの共通認識にたち、『4つの柱』が確立されることが重要であるとの結論に達しました。

【4つの柱】

① 理念の確立

施設において個別ケアに携わる全職種・全職員が利用者個人の自立への支援と尊厳の保持をするための目標を定め、進むべき方向性を明確にする目的から施設ケアの理念を各施設で確立することが重要となります。

当研究会では、介護が必要となり、施設を利用することになって

も、今までの暮らしを引き続きできるように「誰もがありのままに、その人らしく」施設で暮らすことができるよう援助するための取り組みを行い、高齢者がいかなる場合であっても、その人が求める生活を提供していくことを理念としてアプローチを行うものです。

② 居場所づくりの確立

利用者は家族と離れて施設で生活することは、まったく異なった環境で暮らすことになり非常に不安になります。そこで、不安にならないように、施設はできる限り家庭での生活に近い環境の中で過ごしていただけるよう援助していくことが必要となると考えます。

そのためのツールとして「生活支援シート」及び「24時間支援シート」を作成し、その利用者の求める居心地の良い居場所や生活リズムを提供していくために活用することとしました。

特に「24時間支援シート」では、時間を追った日常の生活のリズムを把握し、その利用者が求める居場所を明らかにし、的確な援助を提供できるよう作成しました。

③ 多職種協働の確立

施設ケアを構成する施設長・介護支援専門員・生活相談員・介護

職・看護職・機能訓練指導員・栄養士・調理師等の専門職種が協働して個々の利用者と常に関わり、その生活を援助するためには、各専門職などの立場から利用者の情報を共有するということが不可欠となります。

そこで、協働作業と情報共有のためのツールとして「生活・身体・栄養状況記録」及び「介護・看護・栄養アプローチ連絡用紙」を使うことにより多職種との協働をより推し進められ、利用者の施設生活の向上に資することができるものとして、活用することとしました。

なお、「生活支援シート」は、職種にとらわれない構成となるとともに基本情報の収集及び本人・家族の情報を加味することにより、活用しやすい具体的な支援ケアプランが作成できる内容としました。

「生活・身体・栄養状況記録」及び「介護・看護・栄養アプローチ連絡用紙」は、バイタルサイン、水分摂取量、排泄及び体位交換を時間を追って把握することにより、一週間単位でその人の生活・身体・栄養状況を多職種間で共有できる内容となっており、さらに多職種間の連携を密にすることが可能となりました。

④ 人材育成の確立

施設ケアの内容は、ケアに関わるスタッフの資質により大きく左右されるといっても過言ではありません。

特に、新入職員等の貴重なマンパワーが良質なスタッフとして成長していくためには、施設での研修・教育は欠くことができないといえます。その重要性に鑑み、施設は自ら人材育成に積極的に取り組むことが求められてきます。そうしたことから、当研究会が作成した「生活支援シート」、「生活・身体・栄養状況記録」、「介護・看護・栄養アプローチ連絡用紙」及び「24時間支援シート」（以下「支援プランシート」という。）をツールとして活用することにより、現場の事例をとおした教育訓練を可能にすることができます。これにより、施設ケアのレベルの向上と職員誰もが対応できるケアの確立が図れるものと考えています。

3 施設ケアを高めるための支援プランシートの作成と利用

『4つの柱』をテーマに、支援プランシートを作成することにより、

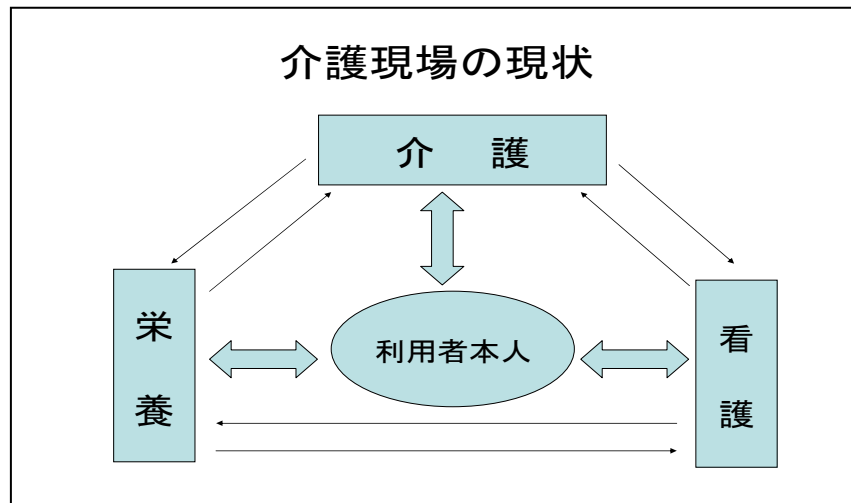
どの施設でも共通に実施できるようにし、施設ケアのレベルの向上に役立てることを目的として、千葉県「施設のあり方研究会」版シートの作成作業に入りました。

このシートのねらいは、次のとおりです。

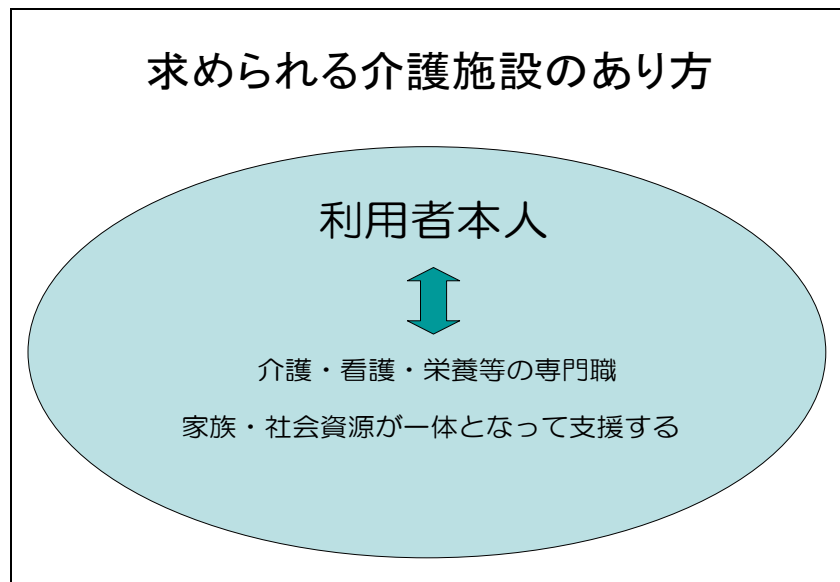
- ① 利用者の個別情報を一つにまとめ、一人ひとりをよりの確に把握でき、情報を一つにまとめることにより介護、看護、栄養等が一体的に情報の共有をすることにより、総合的な支援を可能にします。
- ② 生活視点に立ち、一人ひとりの入居者が、どこでどのように過ごしたいかがわかり、そのための生活支援が可能になります。
- ③ 情報の共有によりさまざまな角度から、あるいは、それぞれの専門職の知識や技術をすべての職種が共有し合うことにより、チームケアとしてのケアの統一性が図られ、さらに、施設内研修のよき事例となり、人材育成のための重要な役割をはたすことができます。

これらのことから、シートを活用することによりこれまで分散していた記録が一つになるため、多職種が情報を共有することができ、一体とするケアの実現が可能になるものと期待されます。

(図2)



これまでは、専門職がそれぞれ独立して情報を提供し
合いながらケアを行ってきました。



これからは、専門職が一体となって、協働して
ケアに取り組むことが求められます。

4 事業取組のプロセス

ステップ1 現在の施設の状況の確認

- ・ 介護体制
- ・ 入所者の状況
- ・ 記録用紙

ステップ2 事業推進体制の整備

- ・ 施設内推進体制の整備
- ・ 課題の整理
- ・ 取組スケジュールの設定

ステップ3 支援プランシートの導入

- ① 「生活・身体・栄養状況記録」及び「介護・看護・栄養アプローチ連絡用紙」の導入
- ② 「生活支援シート」の導入（入所者・家族との面談）
- ③ 「24時間支援シート」の導入

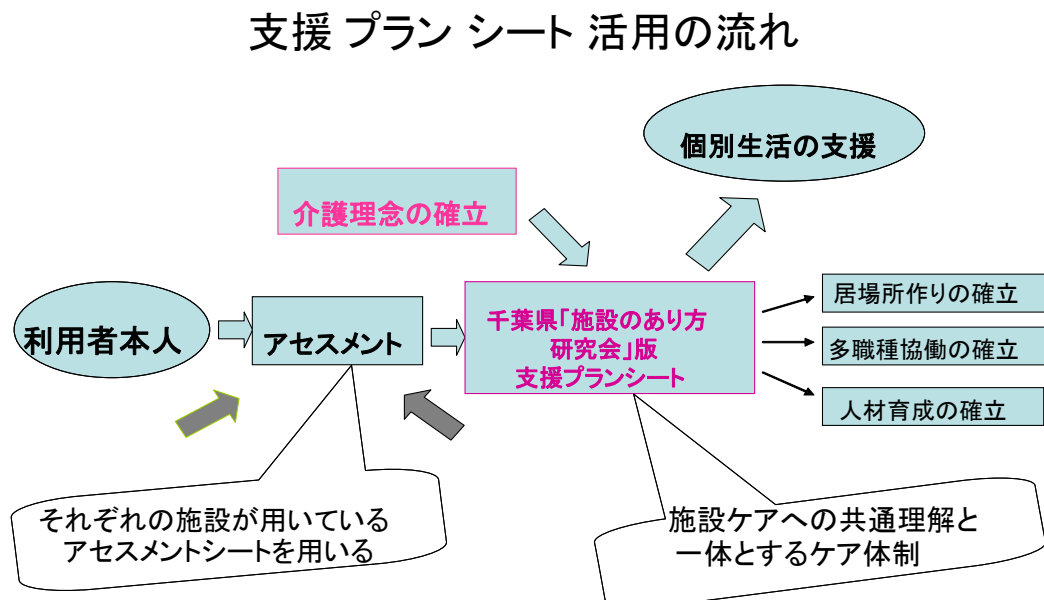
ステップ4 ケアの向上に向けて

- ・ 介護体制・介護チェック体制・会議等内容の変更
- ・ 記録用紙の変更
- ・ 具体的ケアの検証（モニタリング）
- ・ 個別ケアの取組に向けての検討

5 展開

施設ケアをさらに高めていくためには、施設の専門性を有効に活用することが重要になってきます。そのためには、利用者本人をきちんとアセスメントすることが欠かせません。そこで情報を一本化し、一人ひとりを的確に把握していくために、千葉県「施設のあり方研究会」版支援プランシートを活用することにより、利用者個人の生活支援を可能なものにすると考えます。

(図3)



6 期待される効果

支援プランシートをとおしてさまざまな職種が一体となり、はっきり見える形でケアに取り組むことができるようにするために、『4つの柱』を軸に、利用者の生活をさまざまな視点で協働して支援することができますと考えます。

施設は今後、これまでの固定された概念による施設のあり方から脱皮し、外部のさまざまな社会資源を採り入れたり、家族との協働参画による共に支える介護を実現し、さらには看取りへの取り組みを可能にします。また、介護の質を高めていくだけでなく、予防や、早期発見の場としても施設は重要な拠点としての役割が期待されるでしょう。

そのほか具体的には、今後以下のことが期待されるものと確信しています。

- ① 介護・看護・栄養等が一体となって生活支援を行うことにより、多職種の協働のもとでケアにあたることができます。
- ② アセスメント・ケアプランと生活記録が一体的になっており、一人ひとりの生活状態が把握でき、個別ケアへの取り組みがしやすくなります。

- ③ 施設に限定するものではなく、この生活支援シートは在宅で暮らす介護を必要とする高齢者にも活用することができ、家庭→施設、施設→家庭というように、生活の場所が変わっても一貫した情報のもとで、情報を共有しながら連続性のあるケアの実現を図ることができます。
- ④ 身体拘束廃止に向けた取り組みを行う場合、実態を把握し、より良いケアにつなげていくために、生活支援シートを活用して身体拘束をなくすための実践的な取り組みを行うことで、ケアの質を高めることが期待できます。

7 モデル事業実践例から

(1) 平成 19 年度モデル事業結果から

① 支援プランシートの検証

種別	利点	施設の改善点・今後の検討点
生活と身体 の状況の 記録	<ul style="list-style-type: none"> ① 家族への説明がしやすい。 ② 状態の変化の気づきが早くなり，原因がわかる。(水分量・排泄・食事量・服薬など) ③ 記録の短縮化(特記事項のみ記載) ④ 病院への受診時，医師等への情報伝達に役立つ。 ⑤ 生活のパターンが見えやすい。 ⑥ 各職種の動きがわかり，話がしやすい。 ⑦ 休み明け等，短時間で入居者の状態把握可能。 ⑧ 時系列・1週間の経過がわかりやすい。 ⑨ Wチェックがしやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ① A3用紙のため，保管が難しい。 ② A4用紙にすると，記入がむずかしい。 ③ 記入欄が小さく，書きづらい。 ④ ユニット毎に1冊のファイルに綴じる。 ⑤ 各ユニット・各職種による統一した記入方法の検討が必要。
介護連携 ネットワーク 看口用 紙 栄養 養	<ul style="list-style-type: none"> ① チームケアに役立つ。 ② ケアに対する見方の幅が広がる。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 職種により色分けで記入(つつじ苑) ② 時系列の記入の徹底 ③ 介護・看護職以外の多職種記入
生活 支 ト 援	<ul style="list-style-type: none"> ① 利用者・家族の目線でプランが作成できる。 ② 利用者の情報すべて及び基本情報から支援内容までの一連の流れが一枚の用紙に入る。 ③ 誰でも，利用者の状況を的確に把握できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 課題抽出が難しい。勉強会などの必要性が高い。

24シ 時 間 ト 支 援	① 利用者の生活スタイルがわかる。→職員の利用者理解・個別ケア，家族のサービス内容の理解 ② 各職種・業務分担が明確化する。 ③ ケアのポイント・リスクのポイントがわかる。	① 記入の仕方の検討・統一を図る必要がある。
-----------------------------	--	------------------------

② 実践の検証

【利点】

○ 個別ケアの向上

- ・ 排尿パターンの把握がしやすくなったため，オムツの尿漏れが無くなり，トイレでの排便がスムーズに行えるようになりました。
- ・ 食事摂取量の状況が一目でわかりやすく，水分補給をいつ，何を飲んでいるのかを記入しているため，スムーズに飲んでいただけの方法が検討しやすくなり，毎日の水分摂取量が増えました。
- ・ 脱水や風邪などの体調不良者が少なくなりました。
- ・ 利用者のできること，してほしいことが明確になりました。

○ 職員の質の向上

- ・ 様々な職種の専門的視点からの意見や留意点が記入されるよ

うになり、介護職員が他の職種の意見を参考にしながら、ケアできるようになりました。また、職種間での情報の共有がしやすくなりました。

- ・ 病院受診時に使用できます。
- ・ 栄養マネジメントに応用できます。

○ 人材育成

- ・ 新人や関わりの少ない職員でも同じようにケアができるようになり、ケアの統一が図れました。
- ・ 生活全体を捉えたケアプランが簡単に立てられるようになりました。
- ・ 利用者の目線に合わせたケアプランができるようになりました。
- ・ 業務としてではなく、利用者一人ひとりの生活全体が見えるようになりました。

○ 家族の理解

- ・ 家族に詳しく状況が説明でき、安心してくださっているように思います。
- ・ 利用者は自分のことを真剣に考えてくれる職員に満足してく

ださっているように思います。

- ・ ケアプランに，利用者・家族の希望が取り入れやすく，わかりやすいものになりました。

【改善・検討点】

- ・ 会議等の時間が勤務時間内に取れないため，軌道に乗せるまで，残業時間が多くなりました。
- ・ 新しい用紙になれることに時間がかかりました。
- ・ 生活支援シートの考え方になれるのに時間がかかりました。

(2) 平成 20 年度モデル事業結果から

(平成 19 年度結果に付け加える点)

① 支援プランシートについて

- ・ 24 時間支援シートについて，同じ内容は記号を使い簡素化。
(九十九荘)
- ・ 身体・栄養状況記録及び介護・看護・栄養アプローチ連絡用紙の改訂。(総野園)

② 実践の検証

- 施設にとっての効果：ケアの質の向上の礎・仕組みができたこと。
 - ・ 死亡者数が減少しました。
- 職員にとっての効果：職員意識の向上。
 - ・ 職員にとって、記録を書くことに加え、記録を確認することの重要性が認識できました。
 - ・ 記録により、責任が明確化しました。
 - ・ 介護者が何もしていない時間が多いということに気づきました。
- 利用者にとっての効果：利用者一人ひとりの生活と職員のケアが結びつくように取り組みました。それにより、利用者の安心した生活の確保に努めました。
- その他
 - ・ 従来の記録紙について、検討・整理したこと。
 - ・ シートの20年度改訂版を検討・使用したこと。
 - ・ シートによる個別ケアの質の向上について、検証したこと。
 - ・ 職員の事業に伴う負担感の軽減化に努めたこと。